經濟論叢

第九十四巻　第一號

社会主義と農業問題……木　原　正　雄　1

企業理論と投資理論 (二)……山　田　　保　21

ALAM 対フォード自動車会社……岡　田　賢　一　48

昭和三十九年七月

京都大學經濟學會

社会主義と農業問題

――協同的所有を全人民的所有の水準にまでたかめる方策について――

〔朝鮮民主主義人民共和国の社会主義農村問題にかんするテーゼ〕

木原正雄

社会主義の建設、社会主義から共産主義への移行は、複雑な過程であり、かんたんなものではない。社会主義建設の段階にはいった国が、かつて植民地であり、経済的におくれていた国であればあるほど、困難かつ複雑な過程をとおらざるをえない。なぜなら、帝国主義国の政治的・経済的支配により、経済の発展は、ゆがめられ、封建的搾取制度のきそが、帝国主義的搾取と結合し、政治、経済、文化など、あらゆる面に、不均衡な状態がつくりだされているからである。

植民地、半植民地の国の農村と農民は、封建的な搾取、抑圧と、それを保持し利用する資本主義的な搾取と略奪のもとに、国内および国外からの二重の搾取のもにおかれていた。

工業と農業との不均衡な状態は、都市と農村との差異をいっそう深刻なものにし、資本主義のもとにおける農村軽視の思想は、経済のみならず、技術、文化、思想の分野におけるたちおくれをよりおおきくする。

農業に支配的な小商品生産、農業経営の分散性は、農民と労働者の階級的差異をふかめる方向に作用する。

さらに、封建的搾取と資本主義的搾取の二重の抑圧のもとで、つねに富農と貧農とへの分解過程がすすみ、地主、富農、中農、小農、貧農という、階級構成、その相互関係は、ひじょうに複雑なものとなる。そのうえ、さらにくわえて、工業とことなり、農業生産においては、自然的条件により左右される度合いがおおきく、季節的制約による影響もまたおおきい。このため、工業よりもいっそうおおくの困難がつくりだされる。これらすべての要因が、社会主義の建設において、農民・農村問題を複雑にし、その解決を困難なものにする。

一

労働者と農民は、資本主義社会、すなわち階級社会における二つの基本的な被搾取階級である。社会主義革命、社会主義建設の目的は、搾取階級を一掃し、搾取制度を廃絶するのみならず、いっさいの階級をなくすことである。すなわち「社会主義とは、階級をなくすこと」[1]にほかならない。

(1) Ленин, Соч., изд. 4-е, том 25, стр. 434

階級がなくなるには、「社会的生産手段にたいする関係について、社会の成員のあいだに、差別がなく」[1]ならなければならない。無階級社会を実現するには、とくに、都市と農村、労働者と農民との差異をなくし、すべてのひとびとが社会的生産手段にたいする関係において、どのような差別もなく、またすべてのひとびとが働き手になることが必要である。

(1) Ленин, Соч. изд. 4-е, том 25, стр. 434

農業における資本主義的発展のみちがもたらした、農業におけるたちおくれと、社会主義革命と社会主義建設のも

とも重要な目的のひとつである、すべて階級をなくすという、二つの要因のために、農民・農業問題は、社会主義革命の基本的な戦略的な、長期にわたる問題として、提起され、したがってまた、社会主義・共産主義建設の、もっとも重要な構成部分とならざるをえない。

つまり、農民・農業問題の最終的な解決は、なによりもまず農業生産におけるたちおくれをなくし、工業の発展水準においつかせること（経済的課題）、あわせて、都市と農村、労働者と農民の階級的差異をなくす（政治的課題）ことにほかならない。

農業は、工業とならんで、国民経済の二つのもっとも重要な部門の一つである。すなわち、農業は、食料の供給源であり、軽工業にたいする原料供給部門であり、社会的生産の拡大再生産過程において、重要な位置をしめている。したがって、農業の生産力をたかめ、不断の発展を保証することは、欲望と嗜好がますます多様となる共産主義的分配へ接近するにしたがい、よりいっそう重要な課題となる。もし、農業の発展が停滞し、工業にくらべいちじるしくたちおくれるならば、国民経済全体の均衡を破壊し、その発展を阻止するにいたるであろうことは、あきらかである。以上は、農民・農業問題を解決するにあたり、考慮しなければならない経済的側面である。

つぎに、社会主義が階級をなくすことであるかぎり、共産主義にいたる全時期にわたって、農民・農業問題は、共産主義への移行の成否を左右する重要な問題とならざるをえない。このことは、農民・農業問題を解決するにあたって、考慮しなければならない政治的側面である。

したがって、農業の社会主義的改造、すなわち個人農経営から集団的経営への組織がえは、社会主義革命の歴史的転換をなすものではあるが、そのあとも、なお解決されなければならないおおくの問題があり、農民・農業問題は、

ひきつづき、社会主義・共産主義建設において重要な位置をしめる。

解決し、克服されなければならない問題のひとつは、所有関係をより発展させ、古い社会の遺物をなくすという問題である。もうひとつの問題は、農業の生産力を急速に発展させることである。もちろん、この両者は、密接な関係のもとにあり、相互に影響をおよぼしあうことは、いうまでもない。

二

社会主義のもとにおける農民・農業問題の最終的解決にいたる過程は、つぎの三つの時期にわけることができる。

第一の時期は、ひろい意味での社会主義革命の時期であり、農業の社会主義改造の時期である。この時期の課題は、農業における資本主義要素を一掃し、分散した個人農経営を、自発性にもとづいて、集団経営につくりかえる、農業集団化の時期である。資本主義的要素を一掃するということは、搾取と搾取制度を一掃し、農村軽視のきそをなくすことにほかならない。個人農経営を集団経営にかえることは、農業生産力の発展を阻止する私的所有にもとづく生産関係を、社会的所有にもとづく生産関係につくりかえ、農業生産力を急速にたかめるための前提をつくりだすことである。

このばあい、農業生産力の性格とその水準、農民のなかにねづよくのこっている小生産者的意識のために、ただちに全人民的な所有を実現することはできない。

農業生産力の性格と水準、農民の意識水準におうじた所有関係として、ふつう、協同組合的な集団的所有形態への改造がおこなわれる。もちろん、協同組合的所有形態は、固定したものではなく、生産力の発展と農民の意識水準の

向上にしたがい、つねにより高い所有形態へと変化し、発展することは、いうまでもない。

第二の時期は、農民の集団経営をきそに、農業における社会主義制度を、つねに強化し、発展させる時期である。この時期は、私的所有にもとづく生産関係の拘束から解放された農業生産力を飛躍的に向上させ、農業における古い社会の遺物を一掃し、思想、文化、技術におけるたちおくれをなくし、農民の福祉をたかめることによって、都市と農村との差異、労働者と農民との階級的差異をなくすため、農業における所有形態を、より高い形態につくりかえる時期である。

これらのことは、共産主義への移行を実現するために解決されなければならない基本的な問題であり、この時期は、共産主義への移行の準備の時期にほかならない。

このような、第一の時期と第二の時期をとおって、すなわち、ひろい意味での資本主義から共産主義への過渡期をへて、社会的生産手段にたいする関係において、社会の成員のあいだに、差別のない社会の実現される第三の時期にはいる。

ソ連、中国、その他の社会主義国における農業の社会主義改造と社会主義農業制度強化のみちは、右にのべた過程が、合法則的なものであることをしめしている。

しかしながら、社会主義・共産主義建設の段階において、どのようにして、都市と農村との差異をなくし、労働者と農民との階級的差異をなくしていくか、すなわち、その差異の存在するきそとなっている所有関係、とくに農業における協同組合的所有形態を全人民的所有形態にたかめていくか、都市にくらべ低い文化水準、技術水準、および思想的意識、自覚性におけるたちおくれをなくす方法については、それぞれの国の具体的、歴史的諸条件におうじ、こ

となることは、いうまでもない。

三

一九六四年二月の朝鮮労働党中央委員会で、金日成委員長により提起された『わが国の社会主義農村問題にかんするテーゼ』[1]は、朝鮮の具体的条件に適応した社会主義農村建設の歴史的テーゼであり、協同組合的所有を全人民的所有の水準にまでたかめる具体的な方策をしめしたものとして、重要な意義をもつものといえる。

(1) このテーゼは、『朝鮮資料』一九六四年第三号、『朝鮮時報』三月二十八日づけ第三〇九号、『世界政治資料』一九六四年第一八八号に、その邦訳がのせられている。ここでは、『朝鮮資料』の邦訳によった。

このテーゼは、社会主義のもとでの農村問題、農業問題の意義をのべ、そこの問題を解決するための基本原則をあきらかにし、さらに、解決するための諸方策についてのべている。

このテーゼでは、第一に、農民問題は、革命の基本的戦略問題として提起され、第二に、農村問題は、社会主義・共産主義建設の、もっとも重要な構成部分として位置づけられ[1]、第三に、農民問題を正しく解決し、革命の勝利を保障するものは、労農同盟の強化であることが強調されている。この三つが、このテーゼの基調となっている。

(1) 朝鮮民主主義人民共和国においては、一九五六年末に、農業協同化は基本的に完成され、協同化のおくれていた山間地帯や都市周辺の農民にたいする改造事業も、一九五八年八月末に完了し、この時期から、社会主義的生産関係が全一的、支配的になったということができる。（「朝鮮における社会主義の基礎建設」四七～五〇ページ参照）

さきにものべたように、農民・農業問題の最終的な解決は、都市と農村との差異、労働者と農民の階級的差異をなくすことである。したがって、農業における社会主義的協同化が完成されたあとでも、なお労働者と農民の階級的差

異が存在するかぎり、農民・農業問題は、共産主義の高い段階にいたるまでの全時期にわたって、重要な意義をもたざるをえない。

農業における社会主義的協同化の完成は、社会主義革命における歴史的転換を画するものである。しかし、このことは、農業における生産力のたちおくれ、技術、文化、思想におけるたちおくれを、ただちに一掃するものではない。いっきょに、全人民的所有を実現することができず、工業とくらべ、より低い所有形態の存在を必然的ならしめるのは、農業における生産力の水準の低さであり、農民の思想・意識水準の低さにほかならない。

そこで、テーゼは、社会主義のもとでの農村・農業問題――さきにあげた第二の時期の――を解決するため、三つの基本原則をかかげている。

一つは、農業におけるたちおくれを克服するため、技術革命、文化革命、思想革命をてってい的に遂行することである。農村のたちおくれは、資本主義のもとにおける農村軽視による古い社会の遺物の残存によるものであり、工業にくらべ、その物質的・技術的土台が弱いためにほかならない。経済的きそが弱いため、農業では、都市にくらべ文化水準もひくく、また農民の思想意識もおくれ、協同組合的所有形態が支配的にならざるをえず、したがってまた、労働者と農民の階級的差異ものこる。

都市と農村、労働者と農民との階級的差異がのこっているかぎり、革命的変革が必要である。

したがって、農村では、社会主義的改造が完成されたあとでも、すなわち、ひろい意味での社会主義革命がおわったあとでも、革命をつづけ、農村では、革命をいっそうてってい的に遂行することが必要であるし、遂行しなければならない。

このため――たちおくれを克服するため――、農村での技術革命、文化革命、思想革命をてってい的に遂行することが必要である。この三つの革命は、農村に、すすんだ物質的・技術的土台をつくりだすために必要であり、したがって、この三つの革命は、農村における社会主義協同化が完成したのち、農村における中心的な革命課題となる。

この三つの革命は、おたがいにきりはなされたものではなく、あるいはまた、前後して遂行されるものでもない。この三つの革命は、統一過程として、遂行される。

しかしながら、農業におけるたちおくれを克服し、農業のよりたかい物質的・技術的土台をつくるためには、とくに、思想革命がすべての事業に優先して遂行されなければならない。

このように、テーゼでは、農業の発展のために「物質的関心」を第一のよりどころにはしていない。現在、ソ連では、「物質的関心の原則」を、共産主義建設のための政策のきそとしているのにたいし、このテーゼでは、なによりもまず、思想革命に重点をおいている。このことは、このテーゼの基本的な立場である。

第二の基本原則は、労農同盟の強化である。農民・農業問題の解決を保障するものは、労農同盟であり、農民にたいする労働者階級の指導、農業にたいする工業の援助、農村にたいする都市の支援を、あらゆる面から強化することである。

農民にたいする労働者階級の不断の指導と援助こそが、農業の社会主義建設、共産主義への移行の必須条件である。工業は、国民経済のもっともすすんだ、指導部門である。したがって、おくれた農業を工業が援助することは不可欠のことであり、工業の援助によって、はじめて、農業は、発達した技術によって装備することでき、都市の水準にまでひきあげることができるからである。

農民にたいする労働者階級の指導、農業にたいする工業の援助によって、協同的所有を全人民的所有とむすびつけ、協同的所有を、全人民的所有水準にまでひきあげることができる。

このように、テーゼは、農民の積極性を発揮させ、農業を発展させ、農民生活を向上させるのは、とりもなおさず、農民にたいする労働者階級の指導であり、農業にたいする工業の援助であり、農村にたいする都市の支援であることを、強調している。

第三の基本原則は、農業における所有関係と経済管理の水準をひきあげることである。労働者と農民との階級的差異を規定するものは、なによりも所有関係の相異であるが、経済管理の水準の相異も、また労働者と農民との階級的差異を規定する重要な要因である。

経済管理の水準の差異と所有関係における差異とをなくすためには、技術革命、文化革命、思想革命の遂行とならんで、経済管理の水準を、工業における水準にまでたかめ、所有関係を、全人民的所有の水準にまでひきあげることが必要である。

ところで、社会主義農業にたいする指導と管理を改善するための基本方向は、いかなるものである。それは、農業協同経営の管理・運営の方法を、工業の先進的企業的方法に、たえずちかづけることにほかならない。

では、企業的方法で管理するというのは、どのようなことなのか。それは、第一に、生産にたいする技術指導をつよめることであり、第二は、企業所のすべての経営活動を計画化し、組織化することを意味している。

テーゼには、右にのべた三つが、農民・農業問題を解決するための使本原則として、かかげられている。

とくに、協同的所有の発展にかんする問題、全人民的所有（工業）と協同的所有（農業）との相互関係についての

問題は、労働者と農民との階級的差異をなくし、都市と農村との差異をなくすことを目的とする社会主義農村建設と全般的な社会主義建設における基本的問題である。なぜなら、これは、ひとつは、農民の社会・経済的地位と、もうひとつは、労働者階級と農民との相互関係と直接関連する重要な問題だからである。

本来、協同的所有は、第一に、生産力の性格と水準、第二に、農民の思想・意識水準に適応した、社会主義の段階に、ふつうみられる所有形態のひとつである。したがって、この所有形態は、一定不変のものではなく、生産力の発展と、思想・意識水準の向上にともない、つねに変化・発展するものである。協同的所有形態を、さらに発展させるには、協同的所有形態自体のもつ潜在力と可能性を、最大限に利用することが必要である。では、どのようにして、協同的所有の潜在力と可能性を利用し、それをより高い所有形態にまでたかめるのか。これは、とりもなおさず、協同的所有を全人民的所有の水準にまでたかめる問題である、共産主義への移行を実現する具体的な諸方策にかかわるもっとも重要な問題のひとつである。

テーゼは、この問題を解決するため、全人民的所有と協同的所有の相互関係、工業と農業とのあいだの連携を、どのように発展させるか、すなわち、協同的所有を全人民的所有に転化させる方法については、つぎのように、指摘されている。「工業と農業とのあいだの直接的な生産的連携を強化し、協同的所有にたいする全人民的所有の指導的役割をたえずたかめる方向で、二つの所有を有機的にむすびつけることである[1]」

(1) 前掲　邦訳誌　八ページ。

このように、協同的所有にたいする全人民的所有の指導的役割をたえずたかめることによって、工業と農業とのあいだの直接的な生産的連携を強化（傍点――木原）することが、単一の全人民的所有を実現するみちとして指摘されてい

る。

朝鮮には、農業にたいし、機械を提供するなど、いろいろの援助をとおして、直接農業に服務する国家企業所がある。全人民的所有へのみちは、具体的に、これらの企業所[1]を物質的に強化し、うまく管理し、これらの企業所が、協同経営による農業生産に、積極的に参加し、協同経営の発展における役割をたえずたかめるという方法で、全人民的所有に属する現代的な物質的・技術的手段が、農業生産において、圧倒的な比重をよめるようにすることにある。

(1) 国家企業所は、農機械作業所、灌漑管理所、採種農場と種子処理所、農事試験所、種畜場、獣医防疫所などをいう。農機械作業所は、ソ連のかってのMTSにあたるものである。

全人民的所有と協同的所有との、このようなむすびつきを強化することによって、農民にたいする労働者階級の政治的・思想的影響をつよめ、工業の機械技術、先進的企業管理と生産文化を農村に、よりよく普及することができ、農村にたいする都市の支援を効果的に実現することができる。

また、このようにむすびつけることによって、協同的所有を強固に発展させ、それを全人民的所有によりいっそうちかづけ、協同的所有を、全人民的所有に、しだいに転換させる過程を順調にし、はやめることができる。

これが、社会主義のもとでの農民・農業問題の解決を保障する、労働者階級の指導的役割をたかめ、労働同盟をさらに強化するみちであり、社会主義と共産主義建設をはやめるみちである。[1]

(1) 前掲 邦訳誌 八ページ参照。

このように、国家企業所をテコにして、これらの企業所を強化することによって、経済的、政治的、文化的影響をつよめ、協同的所有を、全人民的所有にまでたかめていくことが、強調されている。

このテーゼには、農民・農業問題を最終的に解決するためのみとおしとその方法、および、当面の重要な問題として、「協同農場の経済的土台をいっそう強固にし、農民の生活水準をさらにいちだんとたかめる」[1]ための具体的な課題が指摘されている。

(1)『労働新聞』一九六四年三月三十日づけ社説。

協同的所有を全人民的所有にたかめる方策については、さきにものべたとおり、全人民的所有のがわからの積極的な援助と指導、すなわち、国家企業所を、さらに拡大強化することによって、全人民的所有に属する現代的な物質的・技術的手段を、農業生産において圧倒的比重を占めるようにすることによって、協同組合的所有を、全人民的所有を、全人民的所有に転換させる、という点にある。

したがって、「協同的所有にたいする全人民的所有の指導的役割を弱め」[1]たり、「二つの所有を分離させる方向ですすむ」[2]ようなやりかたは、すなわち、国家企業所を解消したり、あるいは国家企業所と協同農場とをきりはなしたりすることは、拒否され、また批判の対象とされている。

(1) 前掲　邦訳誌　八ページ。
(2)　〃

なぜなら、もし、そのような方向ですすむならば、「農民にたいする労働者階級の政治的・思想的影響がよわまるであろうし、工業の機械技術、先進的な企業管理と生産文化を、農業によく普及することができず、農村にたいする都市の支援をこばむことになり」[1]、これでは、「社会主義的農業制度を強化・発展させることができず、協同的所有の全人民的所有への漸次的な転換も順調に実現することはできない。」[2]つまるところ、労働者階級の指導的役割を低下

させ、労農同盟を弱め、社会主義・共産主義建設をむずかしくすることになるからである。[3]

(1) 前掲　邦訳誌　八ページ。

(2)　〃

このように、所有関係の問題をはじめ、農民・農業問題を解決を解決するにあたって、一貫してつらぬかれているのは、「協同化されたあとには、党と国家とが、協同農場の発展と農民の生活にたいして、責任をもって配慮しなければならない[1]」という立場であり、「社会主義国家は、労働者、事務員の生活ばかりでなく、農民の生活にたいしても責任を負い、全人民的所有の発展ばかりでなく、協同的所有の発展にたいしても責任を負う[2]」という原則である。

(1) 前掲　邦訳誌　五ページ。

(2)　〃

個人農経営のもとにおいては、個々の農民が、それぞれ自分の経営と生活にたいして責任をもたなければならなかったのにたいし、協同的所有も、全人民的所有とともに、国家の経済的きそをなしている社会主義のもとでは、労働者階級の党と国家とが、協同農場の経営と農民の生活にたいし、責任を負い、積極的に援助し指導することによって、はじめて共産主義へも移行することができるという視点から、国家的な支援を、あらゆる方面から強化するという方針が一貫してつらぬかれている。

四

テーゼは、農民・農業問題を解決するため、農村で三つの革命――技術革命、文化革命、思想革命――を、てって

い的に遂行することは、社会主義を全面的に建設し、共産主義への漸次的移行を準備するために不可欠であり、社会主義的協同化が完成されたあと、農村で遂行すべき中心問題として、強調している。

三つの革命を、さらにてってい的に遂行することが必要なのは、第一に、社会主義のもとでも階級闘争はつづけられるからであり、第二に、社会主義制度がうちたてられ、生活が向上したからといって、農民の思想意識は、ひとりでに改造されるものではないからである。したがって、技術革命で農業の物質的・技術的土台を強化し、思想革命で農民の思想を改造し、文化革命で農村住民の文化水準をたかめることによって、はじめて、社会主義の全般的建設と生産主義への転換が保障される。

技術革命は、つぎの四つの基本的構成部分からなっている。すなわち、水利化、機械化、電化、化学化の四つである。

水利化は、自然的・地理的条件による影響のおおい農業、とくに水田耕作が主要な部分を占める農業において、とくに重要な意味をもっている。

機械化は、大規模協同経営にとって不可欠であり、労働生産性をたかめ、労働を軽減するためのきそである。

電化は、水利化と機械化を実施するうえで不離不足の関係にあり、農業における労働生産性をたかめるうえで、電化は特別の意義をもっている。

化学化は、集約農法を可能にする重要な方途であり、農業におけるもっとも重要な生産手段である土地の肥沃度をたかめ、農作物の成長を阻害する害虫や雑草を駆除し、農作物の収獲率をたかめるために不可欠のことである。

このような四つの構成部分からなる技術革命は、共産主義への移行の物質的土台である農業生産力をたかめ、労働

生産性をたかめ、食料と工業原料基地を確立するために不可欠のものである。同時に、都市と農村との差異、労働者と農民の階級的差異をなくすために必要な、農業のよりたかい水準の物質的・技術的土台をつくりだすための革命である。このように、技術革命は、主として、生産力の問題と、その発展にかかわる問題の解決を、主要な課題としている。

文化革命の基本的な課題は、農民の一般的知識水準と技術水準をたかめることである。

農業生産が、技術革命によって、機械化され、さらに、化学化、電化がすすみ、新しい技術がますます農業生産に導入されるにしたがい、農民の知識水準、技術水準をたかめることが必要である。でなければ、技術革命を遂行することはできないからである。

文化革命は、農村における文化・生活条件をたかめ、この分野における都市との差異をなくすために必要な変革である。

思想革命の課題は、古い思想ののこりかす——個人的利己主義や小所有者的根性——をなくし、共産主義思想——集団主義思想——を身につけるようにし、農民の政治的・思想的意識水準を、つねにたかめ、労働者との思想・意識における差異をなくすことにある。

以上が、農業における協同化がおわってから、さらにてってい的にすすめられなければならない三つの革命の課題と内容である。ここで注目すべきことは、これら三つの革命のうち、とくに、思想革命が、農村のすべての事業に優先させるべきもっとも重要かつ困難な課題として提起され、技術革命や文化革命のみに偏することは、重大なあやまりとして強調されていることである。すなわち、生産力の発展、物質的側面の発表に偏することをいましめ、農業の

物質的・技術的土台を確立するためにこそ、思想革命を優先させ、政治的指導をたえずつよめなければならない、ということが出発点となっている。

農民の物質的関心、農民にたいする物質的刺激の原則を、社会主義・共産主義建設のよりどころとし、政策のきそとして、農民の生産意欲、創意性、積極性を、もっぱら物質的関心と刺激によってたかめるという方法によってではなく、「都市と農村間の経済的連携、商業的連携を強化する」[1]という方法によってたかめることに中心がおかれている。（傍点――木原）

(1) 前掲　邦訳誌　二〇ページ。

すなわち、農民の欲求の多様性におうじ、「農村の商品網を合理的に配置し、商品をうまく按配して、農民と工業商品を適時に、円滑に供給[1]」するとともに、農産物の「収買事業を合理的に組織して、農村の商品生産物を適時に買入れる[2]」ことによって、「農民の収入をふやし、かれらの生産意欲をたかめる[3]（傍点――木原）」ことにある。

(1) 前掲　邦訳誌　二〇ページ。
(2) 〃
(3) 〃

このように、物質的関心の原則よりも――とはいっても、物質的関心の原則を否定したり、軽視したりしているのではない[1]――農民の政治・思想意識をたかめる思想革命を優先させなければならないとする論拠のひとつは、社会主義のもとでも、階級闘争はつづけられている、という見地である。

(1) 朝鮮では、社会主義的・国家的大規模経営の優越性を十分発揮するため、農業部門で、個人的、集団的物質的関心の原則をてっていにかつ正

確に貫徹する必要性が、強調され、農業のすべての分野で、「作業班賞金制度」（たとえば、作業班には、作業班別に生産計画があたえられるが、計画を超過して遂行した部分については、農業協同組合にくりいれられるのではなく、超過遂行した作業班で、班員に分けあたえる制度）がとりいれられている。（「朝鮮における社会主義の基礎建設」一一九―一三二ページ参照）

すなわち、階級闘争には、いろいろの側面がある。階級闘争は、国内に、資本主義分子が現実に存在する時期――せまい意味での過渡期、すなわち資本主義から社会主義への過渡期――の、労働者階級と資本主義分子とのあいだの、「誰が誰を」の闘争としてあらわれる階級闘争のみを意味するのではなく、資本主義世界体制がのこっているかぎり、社会主義のもとにおいても、階級闘争は、外部からの敵対分子の侵入、あるいはまた、搾取階級――くつがえされはしたが――の残余分子の破壊活動というかたちであらわれる。さらに、農民の意識のなかになおのこっている古い思想ののこりかすにたいする思想闘争というかたちをとってあらわれる。

三つの革命のうち、思想革命が、あらゆる事業に優先させられるのは、社会主義・共産主義に反対する勢力の侵害からまもるため、なによりもまず思想闘争が必要であり、思想・意識水準をたかめることによって、社会主義の優越性が、はじめて完全に発揮されるという見解が、基底になっているからにほかならない。

このように、階級闘争をひろい意味に解釈し、社会主義のもとでも階級闘争がつづけられるという見解は、社会主義・共産主義の建設の具体的諸方策の内容を規定する重要な問題であり、また、社会主義の性格規定、歴史的段階規定にかかわる重要な問題でもある。[1]

(1) 拙稿「社会主義の性格について」『経済論叢』第九十三巻、第六号参照。

五

農業の分野において、協同化されたあとも「国家的な支援を、あらゆる方面から、強化する、という方針」[1]は、朝鮮民主主義人民共和国における農民・農業問題解決のための、一貫した立場であり原則である。

(1) 一九六四年三月二十六日朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議における金一第一副首相の報告『朝鮮時報』第三一一号参照。

この立場と原則にもとづいて、全人民的所有と協同的所有間の連けいを強化し、協同的所有を全人民的所有へと、さらにちかづけるために、具体的な措置として、「協同農場の経済的土台を強化し、農民の生活を向上させることについて」の法令が採択された[1]。

(1) 一九六四年三月、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第三期第三会議において採択された。

この法令は、つぎの四つの内容からなっている。

第一に、現物税を完全に廃止することが決定された。この法令により、協同農場が、国家に納付する農業現物税は、一九六四年から一九六六年までの三年間のうちに、完全に廃止される[1]。

(1) 朝鮮戦争後、収穫高の二五%であった現物税率は、平均二〇・一%にひきさげられ、一九五九年六月には、さらに八・四%にひきさげられた。山間地帯の協同農場と農民たちにしては、現物税の納付が免除されており、一九六三年末には、総数三、七〇〇余の協同農場のうち、現物税の納付を完全に免除された農場数は、一、三三一にたっしている。

第二は、農村の基本建設のうち、協同農場が、自己資金でおこなっていたものも、今後は、国家資金によっておこなうことが決定された。この措置は、農村の基本建設を、より計画的に、より合理的に、より質的に遂行し、農業に

たいする国家の計画的指導をいっそう強めるためにとられたものである。

協同農場が、いままで自己資金でおこなっていた灌漑施設、脱穀場、畜舎、倉庫、農村、発電所、電気施設をはじめとする、すべての生産的建設と文化・厚生施設の建設は、すべて国家投資によりおこなわれる。また脱穀機、飼料粉砕機、モーター揚水機、噴霧器、カマス織機などの農業機械類は、国家が無償で、協同農場に供給することになり、その修理もすべて国家の負担でおこなわれる。

第三は、農民の文化住宅も、年次別計画により国家の負担によって建設される。また、すでに建てられた農村の文化住宅の建設費も、国家によって負担される。[1]

(1) 過去五年間に、国家基本建設総投資額の二一・七%が農村建設にむけられた（前掲金一第一副首相の報告）。

第四に、協同農場の経済的土台を強化し、農民の生活を向上するため、この法令の実行対策を講ずることが、内閣に委任された。

このように、農業の発展に必要な資金はすべて国家が負担することによって、農業の物質的・技術的な土台を強化し、農業集約化の水準をたかめることが予定されている。すなわち、国家のがわからの支援によって、農業生産を増大し、農民の所得をふやし、ひいては、労農同盟をいっそう強化する、という方策がとられている。

× × ×

金日成委員長によって提起された、朝鮮民主主義人民共和国の社会主義農村問題にかんするテーゼと、これにもとづいてとられた一連の具体的措置は、朝鮮における農民・農業問題を解決する過程で、つみかさねられてきた経験を定式化した、一連の原則をうちだしたものとして、また具体的に、ひとつの方向をうちだしたものとして、歴史的な

意義をもっている。

朝鮮における農民・農業問題の解決のみちは、朝鮮における具体的・歴史的・民族的条件にもとづくものであるとともに、一連の原則的・理論的問題をも提起している。このテーゼの見解と具体的措置には、他の社会主義国とくらべ、ひじょうにことなった点がみられる。このことは、もちろん、社会主義生産主義の多様性から当然のことといえよう。しかしながら、同時に、民族的条件の相異、農業経営規模のちがい、発展段階の相異だけで解消することのできない、原則的な問題も提起されている。このテーゼは、十分検討されるべきものであるとおもう。したがって、さらに、ソ連のコルホーズや中国の人民公在と比較し、農業生産力を向上させるための具体的な方策のみならず、二つの所有形態を接近させるみちなど、一連の理論問題を検討することが必要である。ここでは、紙数のつごうで、具体的にふれることができなかった。いずれあらためて、のべることにしたい。